

令和四年度 学習院大学史料館 秋季特別展

ある皇族の100年

— 三笠宮崇仁親王とその時代 —

2022年

10.1(土) - 12.3(土)

【開室】月～土曜・11月6日(日) 10:00～17:00

【休室】日曜・11月2日(休)

学習院大学史料館 展示室

(学習院大学 北2号館1階)

入場無料

写真：大塚とし子「皇族の肖像」(1950年代) 三笠宮崇仁親王
複製：大塚とし子(1950年代) 三笠宮崇仁親王

ある皇族の100年

—三笠宮崇仁親王とその時代—

大正4年(1915)12月2日、大正天皇・貞明皇后の間に誕生した第四皇男子は、崇仁と命名され、御称号を澄宮、お印は若杉と定められました。大正天皇が皇太子時代に誕生した裕仁親王(昭和天皇)、雍仁親王(秩父宮)、宣仁親王(高松宮)とち兄宮三人は共に「皇孫御殿」で養育されましたが、年の離れた崇仁親王は、青山御所に新たに設けられた「澄宮御殿」で養育されました。その様子は、側仕えの人々が記した「御側日誌」をはじめとする種々の日記や写真に記録されています。大正11年、学習院初等科に入学した崇仁親王は、学習院中等科4年を修了したのち陸軍士官学校へ入学し、騎兵への道を進みました。昭和10年(1935)の成年式に際し三笠宮の宮号を賜り、新宮家を創設。戦前から戦後に至る激動の時代を経たのち、国際親善などの公務や文化活動に尽力し、また古代オリエント史学者としての生涯を歩みました。

この展覧会では、当館が所蔵する三笠宮家資料や皇族関係資料に加え、今回初公開の日記類や直筆原稿・写真・工芸品など三笠宮崇仁親王ゆかりの品を展示します。大正4年の誕生から平成28年(2016)に薨去するまでの三笠宮崇仁親王の100年に亘る生涯を、皇室文化と併せてご覧いただきます。



①



②



④



⑤



⑥



⑦



⑧

①フランス・博文・文芸アカデミー・外国人会員正章 平成3年(宮内庁の三の丸蔵蔵蔵蔵) ②「澄宮殿下御作皇族」(初版)大正11年発行(学習院大学史料館蔵) ③ヘブライ語のタイプライター昭和時代(公益財団法人 中東文化センター蔵) ④京都(清和宮殿蔵) ⑤「御側で自動車」大正8年11月15日 ⑥「青山御所でイタゴの御採取」大正12年6月4日 ⑦「キャンピングにて、象にのり」昭和31年3月21日 ⑧「タロウが動物園 コアラを抱いて」昭和46年1月16日 ⑨〜⑩ 三笠宮家蔵

関連講座：第95回 学習院大学史料館講座

事前申込制

【講演】三笠宮の近現代史—「皇親の宮様」から「学者皇族」まで—

講師 師：角橋 正真氏(三笠宮崇仁親王伝記刊行委員会委員)

【朗読】伝記「三笠宮崇仁親王」を語る

朗読者：樹子女王殿下、角橋 正真氏、伊藤 喜美子氏(同刊行委員会委員)

司会：田中 潤(学習院大学史料館E共同研究員)

【日時】2022年10月8日(土) 14時〜15時30分

申込方法 往復はがきにて下記項目をご記入の上、講座係宛にお送りください。

往信用 ①参加者全員の氏名・ふりがな(1枚につき3名までご応募できます)

②郵便番号・住所(代表者のみ)

③電話番号(代表者のみ)

返信用 代表者の宛先

申込宛先 学習院大学史料館「ある皇族の100年」展講座係 ※住所は右記となります。

申込締切 2022年9月22日(木)必着

定員 先着350名(全席指定とさせていただきます)

※締切日前に定員に達した場合、当館HPにてお知らせいたします。

学習院大学史料館

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL 03-5992-1173

WEB www.gakushuin.ac.jp/univ/ua

Twitter 右記QRコードからTwitterをご覧になれます

